

信州大学工学部 正員 荒木正夫
 信州大学工学部 正員 寒川典昭
 信州大学大学院 学生員 寺島 彰
 信州大学工学部 学生員 佐藤健次

1. はじめに

1)

我々は、今まで最大エントロピー原理（以下 M E P と記す）から確率密度関数を決定する方法を議論し、降水頻度分析を対象としてその妥当性を検討してきた。ところで、複数の水文量を同時に考えなければならない水工計画などでは、多変数分布が要求される。本報では、この基礎となる2変数分布に M E P を導入し、確率密度関数を決定しその特性について検討する。

2. 2変数 M E P 分布の算定

得られる情報は次の任意次数までのモーメントである。

$$\int_0^\infty \int_0^\infty p(x,y) dx dy = 1 \quad \dots (2.1) \quad \int_0^\infty \int_0^\infty x^a p(x,y) dx dy = a^{\mu_x} \quad \dots (2.2)$$

$a=1,2,\dots,Na$

$$\int_0^\infty \int_0^\infty y^b p(x,y) dx dy = b^{\mu_y} \quad \dots (2.3) \quad \int_0^\infty \int_0^\infty x^c y^d p(x,y) dx dy = c^{\mu_x} d^{\mu_y} \quad \dots (2.4)$$

$b=1,2,\dots,Nb$
 $c=1,2,\dots,Nc, d=1,2,\dots,Nd$

これを制約条件として、次の相互エントロピーを最大化する分布を求めることは、自然現象の説明において妥当な立場と考える。

$$H(x,y) = -\int_0^\infty \int_0^\infty p(x,y) \ln p(x,y) dx dy \quad \dots (2.5)$$

そこで、この問題をラグランジュの未定乗数法で解くと、 $P(x,y)$ の推定値は、

$$\hat{p}(x,y) = \exp\left(-\alpha - \sum_{a=1}^{Na} \beta_a x^a - \sum_{b=1}^{Nb} \gamma_b y^b - \sum_{c=1}^{Nc} \sum_{d=1}^{Nd} \delta_{cd} x^c y^d\right) \quad \dots (2.6)$$

となる、 $\alpha, \beta_a, \gamma_b, \delta_{cd}$ はラグランジュ乗数であり、以下のように評価する。

$\beta_a, \gamma_b, \delta_{cd}$ の近似値を、 $\beta_a^0, \gamma_b^0, \delta_{cd}^0$ 、残差を、 $\epsilon_a^{\beta}, \epsilon_b^{\gamma}, \epsilon_{cd}^{\delta}$ とおくと、

$$\beta_a = \beta_a^0 + \epsilon_a^{\beta}, \quad \gamma_b = \gamma_b^0 + \epsilon_b^{\gamma}, \quad \delta_{cd} = \delta_{cd}^0 + \epsilon_{cd}^{\delta} \quad \dots (2.7)$$

となり、これを(2.2)、(2.3)、(2.4)式に代入し、テーラー展開の1次までの項を採用すれば、次式が得られる。

$$\sum_{a=1}^{Na} (C_{i+a,0}^{-i} \mu_x C_{a,0}) \epsilon_a^{\beta} + \sum_{b=1}^{Nb} (C_{i,b}^{-i} \mu_x C_{0,b}) \epsilon_b^{\gamma} + \sum_{c=1}^{Nc} \sum_{d=1}^{Nd} (C_{i+c,d}^{-i} \mu_x C_{c,d}) \epsilon_{cd}^{\delta} = C_{i,0}^{-i} \mu_x C_{0,0} \quad \dots (2.8)$$

$i=1,2,\dots,Na$

$$\sum_{a=1}^{Na} (C_{a,j}^{-j} \mu_y C_{a,0}) \epsilon_a^{\beta} + \sum_{b=1}^{Nb} (C_{0,j+b}^{-j} \mu_y C_{0,b}) \epsilon_b^{\gamma} + \sum_{c=1}^{Nc} \sum_{d=1}^{Nd} (C_{c,j+d}^{-j} \mu_y C_{c,d}) \epsilon_{cd}^{\delta} = C_{0,j}^{-j} \mu_y C_{0,0} \quad \dots (2.9)$$

$j=1,2,\dots,Nb$

$$\sum_{a=1}^{Na} (C_{k+a,1}^{-k-1} \mu_{xy} C_{a,0}) \epsilon_a^{\beta} + \sum_{b=1}^{Nb} (C_{k,1+b}^{-k-1} \mu_{xy} C_{0,b}) \epsilon_b^{\gamma} + \sum_{c=1}^{Nc} \sum_{d=1}^{Nd} (C_{k+c,1+d}^{-k-1} \mu_{xy} C_{c,d}) \epsilon_{cd}^{\delta} = C_{k,1}^{-k-1} \mu_{xy} C_{0,0} \quad \dots (2.10)$$

$k=1,2,\dots,Nc, l=1,2,\dots,Nd$

ここで、 $C_{i,j}$ は、

$$C_{i,j} = \int_0^\infty \int_0^\infty x^i y^j \exp\left(-\sum_{a=1}^{Na} \beta_a x^a - \sum_{b=1}^{Nb} \gamma_b y^b - \sum_{c=1}^{Nc} \sum_{d=1}^{Nd} \delta_{cd} x^c y^d\right) dx dy$$

そこで、上の連立方程式を解き、 $\epsilon_a^{\beta}, \epsilon_b^{\gamma}, \epsilon_{cd}^{\delta}$ が十分小さくなるまで、 $\beta_a^0, \gamma_b^0, \delta_{cd}^0$ を修正していく。

次に、変数変換、 $u = x / 1^{\mu_x}, v = y / 1^{\mu_y}$ 、により確率変数を規準化しておく。規準化されたモーメントは、 $a^m_x = a^{\mu_x} / (1^{\mu_x})^a, b^m_y = b^{\mu_y} / (1^{\mu_y})^b, cd^m_{xy} = cd^{\mu_{xy}} / \{(1^{\mu_x})^c (1^{\mu_y})^d\}$ となる。

3. 2変数MEP分布の適合度と特性

母集団分布として、確率密度関数が次式で与えられる2変数ガンマ分布を用いる。

$$P(x,y) = \frac{1}{\Gamma(v)(\sigma_1\sigma_2)} \frac{v-1}{2} \frac{v-1}{(1-\rho)\rho} \frac{v-1}{2} \exp\left\{-\frac{x}{\sigma_1(1-\rho)} - \frac{y}{\sigma_2(1-\rho)}\right\} (xy)^{\frac{v-1}{2}} I_{v-1}\left(\frac{2\sqrt{\rho}}{1-\rho}\sqrt{\frac{xy}{\sigma_1\sigma_2}}\right) \dots (3.1)$$

$v = 4, \rho = 0.5$ とした2変数ガンマ分布の規準化されたモーメント(表の v_{pq})を用い、MEP分布を決定する。ラグランジュ乗数は、表のようになり、これらを(2.6)式に代入すると、MEP分布が得られる。ここで、 $2G(4, 0.5)$

は(3.1)式で $v = 4, \rho = 0.5$ とした分布であり、 $2G(s, t, u, v)$ は $Na = s, Nb = t, Nc = u, Nd = v$ の2変数MEP分布である。図は、理論分布と、このようにして求めたMEP分布を示しており、モーメントの増加に伴い分布形の適合度の改善の様子がうかがわれる。

$2G(4, 4, 2, 2)$ は母集団分布の傾向をよくとらえている。

4. あとがき

ここでは、 $v = 4, \rho = 0.5$ の2変数ガンマ分布を母集団として、MEP分布を議論したが、他の場合についても同様な結果を得ている。

今後は、モーメントの安定性と2変数MEP分布の感度分析を行ない、最もよい適合のモーメントの次数について考察を加えるとともに、実測データへの適用をはかりたいと考えている。

(参考文献)

- 1) 寒川, 荒木, 甲田: 降水頻度分析へのMEPの導入について, 第37回土木学会年次学術講演会講演概要集, 昭和57年10月。

表 ラグランジュの乗数とモーメント ($v=4, \rho=0.5$)

	$2G(2,2,1,1)$	$2G(4,4,1,1)$	$2G(4,4,2,2)$	モーメント	
α	2.1283	5.3627	4.5707		
$\beta_1 (= \gamma_1)$	-1.8801	-8.3625	-7.2592	$v_{10}(v_{01})$	1.0
$\beta_2 (= \gamma_2)$	2.3276	9.7708	10.475	$v_{20}(v_{02})$	2.0
$\beta_3 (= \gamma_3)$	—	-3.1215	-3.6144	$v_{30}(v_{03})$	6.0
$\beta_4 (= \gamma_4)$	—	0.39584	0.42859	$v_{40}(v_{04})$	24.0
δ_{11}	-2.6116	-2.3235	-6.3267	v_{11}	1.2
δ_{12}	—	—	1.0551	v_{12}	2.8
δ_{21}	—	—	1.0551	v_{21}	2.8
δ_{22}	—	—	0.22084	v_{22}	7.36

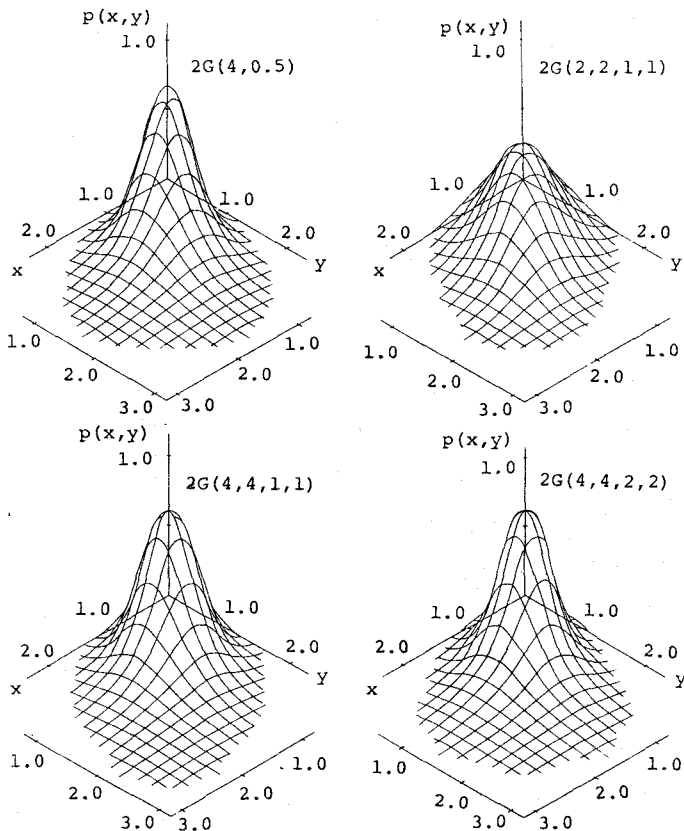


図 MEP分布による適合